



2024年4月1日発行
 (毎月1日発行)
 1984年8月15日第3種郵便物認可
 発行所/(公財)熊本YMCA
 〒860-8739
 熊本市中央区段山本町4-1
 Tel 096-353-6397代



上智大学名誉教授 田中 治彦 さん

2030年に向け、いよいよ今年から“後半戦”が始まったSDGs。今年1月に「新SDGs論」を著したばかりの田中治彦さん(上智大学名誉教授)が、熊本YMCA全体職員研修会で講演を行いました。SDGsの歴史、未来、そして後半戦が始まった現在に考えるべき課題について語られた講演の概要を、抜粋して報告します。

戦後の世界的な課題から始まったSDGs

SDGsの起源を2015年の国連総会、あるいは翌年からスタートした「持続可能な開発目標」と考える方も多いかと思えます。しかし実際はもっと古いのです。

時代が近い方からさかのぼっていくと、2000～2015年の「ミレニアム開発目標(MDGs)」が挙げられます。これは「開発途上国の貧困解消」が大きなテーマ。SDGsの17目標に対し、MDGsは貧困・教育・ジェンダー・保健医療・環境に関する8目標が掲げられていました。一方で、2005～2014年には「持続可能な開発のための教育(ESD)」を推進した「国連ESDの10年」も、世界の取組みとして挙げられます。

さらにこれらのルーツは、1992年、リオデジャネイロで開かれた「地球サミット」です。この会議で「持続可能な開発(SD)」が国際公約とされました。加えて、持続可能な開発といった考えが生まれた背景には、1960年代の「国連開発の10年」も忘れてはなりません。

つまり、SDGsは長い歴史の中で生まれたもの。SDGsを本当に知るためには、戦後の世界が抱えてきたグローバル課題の理解が必要です。すなわち、①東西問題(核と平和) ②南北問題(開発と援助) ③環境問題 ④人権問題の4つの課題。SDGsで取り上げるのは、これらの課題が重なり合う部分です。範囲は広く、それぞれの課題も深刻ではありますが、これらの背景を考慮し、全体像を見なくてはなりません。

後半戦へSDGsのこれから

2030年以降も「居場所がある世界」を目標に

SDGsの目標とされる2030年以降、世界はどうなるか考えてみましょう。

まず大きな課題として人口問題が挙げられます。一昨年には世界人口は80億人となりました。ただ、2060～80年には増加も止まり、100億人をピークに世界人口が減っていくと考えられています。その結果、世界的な人手不足になることは間違いありません。日本でも移民を見据えた多文化共生を推し進めなくてはならないと思います。このほか「生態系を守る」視点での生物多様性も無視できませんし、気候変動の問題も深刻です。

さらに、途上国における、衣食住、教育、医療(BHN)を欠く「絶対的貧困」に対し、その国の平均家庭の半分の収入しかない「相対性貧困」も大きな課題です。SDGs1.2には「それぞれの国の基準で『貧しい』人の割合を半分減らす」といった目標があります。日本では「相対性貧困」世帯は2016年の時点で全体の16%。つまり、この割合を8%まで半減する施策が必要です。相対性貧困は教育や福祉、ジェンダー等に関わる問題で、解決は困難ではありますが、日本全体で取り組むべき大きな課題と言えるでしょう。

SDGsで掲げている大きなテーマは「誰一人取り残さない」。これは「誰にでも居場所がある世界を!」と言い換えられます。2030年以降も、居場所がある世界のために何をすればいいのか、考え続ける必要があります。

後半戦は「ヨコ糸の連携」を通していく

2030年に向け2016年からスタートしたSDGsは、今年から「後半戦」に入ります。前提として理解していただきたいのは、「SDGsは万能ではない」ということ。SDGsは前段で述べたように戦後のグローバルな課題からつながっている歴史がありますが、そのうちの「核と平和」の問題が抜けているのが事実。核廃絶や、戦争を防ぐためにはどうすればいいか、常に問うていくことが不可欠です。同様に、SDGsには「文化」の観点も弱いです。これは、文化というものの特性上、数値目標化しづらいためです。ただ、持続可能性を考える際、楽しくなければ続いてはいきません。継続は、文化の基盤があってこそ。17の次のいわば「18番目の目標」として、文化を捉えていく必要があるでしょう。

SDGsの前半では、各自自治体、企業、団体において「自分たちの活動は目標のどこに位置するか」という「タグ付け」は非常に進んだ印象です。しかし、SDGsの目標はあくまで「社会を『変革』すること」。タグ付けするだけでは決して変革につながりません。プラスの活動として、分野、団体、部局、あるいは教科を超えて「ヨコの連携を通す」ことが必要なのではないでしょうか。世代間の継承となる「タテ糸を通す」ことに加え、団体や学校、自治体、企業が連携し「ヨコ糸を通す」ことが、後半戦の大きな課題だと言えるでしょう。



Pickup

いじめのない世界を
 ピンクシャツデー特集



YMCAぶどうの木幼稚園がピンクシャツデーパレード

YMCAプールに通う皆さんもピンクのものを身に着けてアピール



ピンクシャツデーは2007年にカナダで始まったいじめ反対運動です。



Information 行こう 見よう 深めよう

子どもも大人もYMCAで新たなチャレンジを 体験受付中

熊本YMCAの各プログラムでは2024年度を受講生、会員を募集中です。随時体験を受付中。QRコードからお申込みください。



子どもプログラム

- 子どもスポーツスクール
(水泳、体操、サッカー、ヒップホップ、チアダンスなど)
- 子ども英会話スクール



おとなプログラム

- 成人ウエルネス(トレーニングジム、プール、スタジオ)
- 英会話と世界のことば(英会話、中国語、韓国語、ドイツ語、スペイン語、フランス語)



子どもプログラム
体験申込み▶



成人ウエルネス
体験申込み▶



英会話と世界のことば
体験申込み▶



100周年にむけて 拠点名称変更

熊本YMCAは皆様に支えられ2023年度に75周年を迎えました。2024年度は熊本YMCA創立100周年に向けたスタートの1年となります。100年にむけて、グローバルな視野を持ちながら地域コミュニティをつないでいく、世界120の国と地域のYMCAと熊本の人々をつないでいく働きを熊本YMCAは担っていきます。そのはじめの一歩として、熊本YMCA各地域の拠点名称を変更いたします。熊本YMCAが世界と地域コミュニティのハブとなり、世界をみつめ地域にいきるYMCAを表現し、世界の人々と熊本の人々をつなげていくことを目指していきます。

- 本館 ⇒ 本館/グローバルコミュニティセンター
 - みなみセンター ⇒ みなみグローバルコミュニティセンター
 - ぶどうの木幼児園 ⇒ ぶどうの木体育英語幼児園
 - むさしセンター ⇒ むさしグローバルコミュニティセンター
 - 東部センター ⇒ 東部グローバルコミュニティプラザ
- 変更日 2024年4月1日

熊本YMCA
拠点一覧



指定管理者として 運営継続が決定



御船町スポーツセンターは2014年10月から公益財団法人熊本YMCAが代表を務める共同企業体が、益城町体育施設は2015年4月から同法人が指定管理者として運営をはじめました。2024年3月に指定管理者としての期限を迎えた両施設について、2024年度以降も運営を担うことが決定しました。益城町体育施設は共同企業体による運営となります。感謝して報告いたします。



3月4日(月)に実施された益城町体育施設の管理運営に関する基本協定締結式の様子

日 時 場 会 場 内 容 費 参 加 費 定 定 員 案 参 加 条 件 持 持 ち 物 対 対 象 催 主 催 締 締 切 申 申 込 問 問 合 せ 他 他 他

COM・PASSION II

おもいやりとやさしさ Vol.26
総主事 光永 尚生



「そっと寄り添う」支援活動を目指して

2024年1月1日は、またしても忘れられない日となりました。私たちの脳裏には、いくつの苦しみか記憶として残っていくのでしょうか。私事で恐縮ですが、1995年1月17日の阪神淡路大震災、2001年9月11日のアメリカ同時多発テロ、2011年3月11日の東日本大震災、そして2016年4月14日と16日の熊本地震に直接、間接的な関わりがありました。その間にも、幾度となく豪雨災害、戦争、日本人も巻き込まれた幾多の暗殺事件、数えればきりのないほどに、私たちは困難に見舞われてきました。いくつか

の派遣を通して、私も心が折れそうになったこともありました。

しかし、本当に困難にある方たちは、その当事者であり、私たちの困難は、ある意味、バーチャルな世界となってきました。目にしているものは幻であり、その息遣いや体温は感じることはできません。偶然ですが、私は阪神淡路大震災以来、支援活動に関わることが許されてきました。特に、2011年から2013年にかけては、東京にて勤務していた時でしたので、東日本大震災が発生した直後から、仙台、石巻、岩手県の宮古でYMCAの支援活動を実行する準備の役割の一部を担いました。宮古には、今までにこれこれ10年にわたり関わり、ワイズメンズクラブ国際協会東西日本区の理事や全国の会員のお支えで、「そっと寄り添うための、こころのケア・プログラム」を九州から東北までの教会場で開催し、被害にあわれた多くの方との関係性を整え、そっと寄り添うためのプログラムを模

索してきました。私の想いは、「そもそも、被災地という地名の土地はなく、被災者という名の人はいない。いつも、どここの、住所に住んでいらっしやる、〇〇さんという名前の方」とお呼びすることを心掛け、フルネームで呼び合う事を自分に課してきました。

能登半島地震から3カ月が経ちましたが、まだ、希望の光が届かない場所があり、絶望にさいなまれる方がいらっしやいます。私たちは、マザーテレサの言った、「愛の反対は無関心」という言葉を忘れずに、希望へ向けて歩みながら、困難にある方たちの一人ひとりに関心を持ち続け、愛を与えられるように、そっと寄り添う活動を続けるという決意が必要ではないでしょうか。

私たちのYMCAのプログラムは新年度を迎えます。平和の中にあることに感謝しつつ、私たちの2024年度のChallengeは、まだ始まったばかりです。共にお祈りください。

R | E | P | O | R | T

社会貢献

安心して暮らせる地域づくりを セミナー開催



YMCJAフィランソロピー協会事務局 大塚永幸

企業と企業人の社会貢献を推進するYMCJAフィランソロピー協会が2月14日(水)、リコージャパン(株)熊本支社でフィランソロピーセミナーを開催。生きづらさを抱える一人暮らしの人たちがお互いに支え合う活動を続ける「NPO法人でんでん虫の会」から、代表の吉松裕蔵さんら3名を迎えました。

「人と人との絆を深め安心して暮らせる地域づくりを目指して」をテーマに講演がなされ、活動を始めた

経緯や、これまでの体験談などが語られました。吉松さんは「(リタイア後の孤独を防ぐために)“会社人”としてではなく、“社会人”として社会とつながっていることが大切。そのような意味でも、YMCJAフィランソロピー協会は素晴らしい会だと思います」「あそこに行くとなんかいる、という場所が欲しい」という声をうけておしゃべり会を始めました。そのような会は、会社のスペースなど、様々な場所で開催できます」「行政の制度だけでなく、企業もインフォーマルな支え合いの形づくりについて考えていきましょう」と参加者に語りかけました。



専門学校

建築を学ぶ学生 新しいまちづくりを市長に提案



熊本YMCA学院 建築科 吉田美華

熊本YMCA学院建築科は2年生になると「構造デザイン」「模型デザイン」「インテリアデザイン」「都市設計・建築デザイン」に分かれて卒業制作に取り組みます。その成果を発表する「卒業制作発表会」を熊本YMCA本館で1月に実施。2名が優秀賞を受賞しました。

受賞した2名の都市設計・建築デザインを、2月21日(水)、熊本市長の大西一史さんにプレゼンテーションをしました。卒業制作の課題は「熊本城を中

心にした新しいまちづくり」。熊本市市役所の会議室を会場に、福里亮太さんが「現代城下町～時代をつなぐランドスケープ」、中野光一さんが「puzzle - 繋ぐピース-」をテーマに発表しました。

大西市長は「調査やリサーチがしっかりしており、夢のある発表でした」とコメント。中野さんは、「熊本城周辺の街並みについて道路計画や新しい施設の計画をしました。自分が考えて作品として出来上がったものを市長に発表することができて、いい経験になりました」と感想を述べました。



日本語教育

後輩たちにアドバイスも 留学生の学習成果発表会



熊本YMCA学院 日本語科 尾道一幸

熊本YMCA学院日本語科が3月1日(金)、これまでの日本語学習の成果を披露する「学習成果発表会」を熊本YMCA本館で開催しました。

初めに入学後約6カ月の初級Iクラスの3名が「わたしのこと」というテーマで自分自身や家族、母国の文化についてスピーチ。その後、入学後約1年の初級IIクラスが「将来の夢」、入学後約1年半の中級クラスは自由テーマで、それぞれ日本に来て驚いたこと、感動したこと、今後の目標などについて発表し

ました。入学後約2年の上級クラスは授業の中で取り組んだ「グループ研究」を基に3つのグループに分かれてプレゼンテーションを披露しました。それぞれ「留学生の時間管理大作戦」、「日本と外国の違い」、「YMCJAでの2年間」をテーマに、自分たちの経験に基づき、充実した留学生を送るうえで留意すべきことを写真や動画、統計資料、イラストなどにまとめて発表しました。具体的な経験に裏打ちされた発表は後輩たちにとって、この上ないアドバイスとなりました。この後、3月11日(月)には64名が卒業し、新たな1歩を踏み出しました。



国際理解

ユースが分かち合う YMCJAの国際交流プログラム



熊本YMCA学院 ホテル観光科 渡邊和馬

熊本YMCA学院では、学生たちと共にSDGs推進を実践しています。2月26日(月)、平和を考える取組みとして、「YMCJA平和ユースフォーラム」をオンラインも交えて開催しました。

はじめに、特別ゲストとしてウクライナYMCJAからマルタ・フレツカさんがウクライナの現状を報告。学生たちは現地の生の声を聞いて、報道では分からない困難があることを痛感したようです。続いて、広島YMCJAのユースが「広島YMCJA国際青少年平

和セミナー」、熊本YMCA学院ホテル観光科の金漢林さんが、中国上海で行われた「日中韓YMCJA平和フォーラム」、同学科の金丸翔海さんがネパールでのワイズメンズクラブ国際協会「アジア太平洋地域ユースコンポーション」について報告。異なる国のユース同士が共に世界の平和のために考えた経験について、他の学生たちと共有しました。

参加した学生は、「改めて戦争があってはいけないこと、今も苦しんでいる人がいることを知った」「何か僕たちにできることはないか考えるきっかけとなった」などと話し合う場面がありました。



練習の成果を
発表

サッカー交流戦 &ダンスフェスティバル



◀ 柘崎翔士(くじらリーダー)

サッカー



相嶋千尋(ミントリーダー) ▶

ダンス



2月25日(日)、熊本学園大学大江グラウンドで2023年度の第3回目となるサッカー交流戦を、熊本市こども文化会館でダンスフェスティバルを開催しました。

サッカー交流戦ではピンクシャツデーにちなんで、試合ではピンクのピブスを着用してプレー。ダンスフェスティバルでは、YMCAのヒップホップやチアダン

ス教室に通う子どもたちが自分のカラダを使って大きく表現する姿が見られました。チアダンス世界大会準優勝という好成績を収めた、鹿児島YMCAチアダンス「Cast Magic Faith」が駆けつけて演技を披露し、会場を盛り上げてくれました。

YMCAのこどもプログラムは体験を随時受け付けています。詳細はWebで▶



能登半島地震災害支援 募金ご協力をお願い

全国のYMCAは、内閣府およびJVOAD(全国災害ボランティア支援団体ネットワーク)からの要請を受け、3月末まで金沢市の「いしかわ総合スポーツセンター」に開設された「1.5次避難所」に職員を派遣しました。

また輪島市からの要請によって1月24日から、輪島市町野町の避難所に東京YMCAが職員を派遣し、運営サポートを開始。今後も富山YMCAや全国のYMCAが協力しながら支援活動を続けていく予定です。募金活動も継続しますので皆様のご協力をお願いいたします。

募金使途

- ①被災地近隣YMCAと協働して行う、能登半島地震の被害を受けた地域への支援活動
- ②YMCAが関係する災害支援団体との協働で行う支援活動
- ③子どもを主に、被災者の心のケアのための活動、および、支援者のための心のケアのための活動

受付期間 2024年6月まで

☎ 熊本YMCA本部事務局 Tel 096-353-6397



3月10日(日)に実施した街頭募金活動



Webサイトからの募金も可能です



わたしと聖句



日本基督教団錦ヶ丘教会
川島直道

ヨハネの黙示録 22章13節

わたしはアルファであり、オメガである。最初の者にして、最後の者。初めてであり、終わりである。

初めから終わりまで

神さまは、「初めであり、終わりである」と言われます。すべてのことにははじまりがあり終わりがあります。四月から新しい生活を始められた方々も多いでしょう。この熊本YMCAで新しい学びをスタートさせた方々もいらっしゃると思います。神さまはそのすべてのはじまりから終わりまでを導いておられます。

車で道を走っておりましたら「売りっぱなしにはいたしません」と書かれたお店の看板を見かけました。そのお店は電気店のようでしたが、おそらく修理などのアフ

ターサービスをされるのでしょうか。売った商品に最後まで責任を持つことは大切なことですし、買った人も安心いたします。そこに信頼関係が作られます。

この世界をはじめられた神さまは、この世界を造りっぱなしにはなさいません。最後まで責任を持ってくださいます。当然、壊れたら修理してくださるのです。今この世界はどうなっていますか。戦争があります。自然が破壊されています。世界もそこに生きる人間もますます壊れていくように感じます。けれどもこの世界に神さまは愛する独り子イエスをまをくださいました。イエスマは十字架におかかりになりました。三日目によりがえってくださいました。そのようにしてこの世界をあきらめないで最後まで、完成まで導いてくださいます。

皆さんの新生活にも初めであり終わりである神さまが共におられ、最後まで見守っててくださいます。

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区段山本町4-1
TEL 096-353-6397(代)

発行人／光永 尚生 編集人／大塚 永幸
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



Facebook

熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2024年度基本聖句

マタイによる福音書 5章16節
あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。